

この授業は、岐阜大学・近藤真庸先生のシナリオ（保健授業づくり実践論 大修館）を参考に作成したコンピュータ自作教材による「エイズ学習＝フレンズ＝」である。

エイズは、非常に奥の深い題材である。感染症としての側面、人権問題としての側面の他、メディアに翻弄された人々の問題など多くの切り口があると考えられる。近藤氏のシナリオでは、HIVの感染経路を「入り口」と「出口」ということばで説明している。また、ライアンホワイト君のエイズとの闘いの生涯から、感染者の人権や周囲の理解の大切さについて子ども達に語りかけている。

近藤氏の講演で、このシナリオに触れ、エイズに対して真正面から考えていこうとする近藤氏の情熱と、教材から伝わる「温かさ」「強さ」に感銘を受けた。近藤氏の授業づくりの中の「劇場としての教室」「脚本としての指導案」という考え方も目からうろこであった。ドラマとしての保健授業という側面に

も多いに共感する。ライアンホワイトの生涯
をドラマとして語るこのシナリオでは、特に
それが強く意識されている。
しかしながら、授業技術が未熟な私にとって
て、近藤氏のよう子どもたちを魅了する授
業をすることはとてもできそうにない、と思
えた。子どもたちを飽きさせることなく、さ
らに主体的に活動できる授業にする方法はな
いかと考えたのが、「コンピュータの活用」
ということであった。
このコンピュータ教材は、初作が平成十年
である。その後、自主研究会ひだまりでの検
討を重ね、犬山南小・榊智子養護教諭と協力
してバージョンアップを行った最新バージョ
ンの教材である。
2 コンピュータ教材の概要
この授業をコンピュータでやってみようと思
った理由は三つある。
全体がストーリーとなっているため、パ
ワーポイントによる紙芝居形式にすることで

子どもたちに分かりやすく説明できる。

パワーポイントの「ノート」機能を使うことにより、授業の流れを把握しながらすすめることができ、ポイントを落すことがない。

発言の少ない子どもたちも、自分の画面上で考えをかきこむなど、主体的な活動を支援できる。

こうした利点を想定しつつ、コンピュータ教材の作成にとりかかった。教材の工夫について、授業内容の中で述べたいと思う。

3 授業の実際

子どもたちが先入観にとらわれることのないように、「エイズ」という病名は授業の最後まで出さずにいた。授業の中では、HIVというウイルス名で話を進めた。

学習課題の提示

パワーポイント教材（以下、PP教材と表記）で、ライアンホワイトの写真を提示し、「この少年は、十三才の時に、大きな病気にかかり、あと三か月の命と宣告されました。

この写真は生前のものですが、何歳の時の写真でしょう？」と問いかけた。子供達からは、「十三才で亡くなったのだから十一才くらいかな」などの予想が大方だった。子供達の意見を聞いた後、「実はこの写真は十七才の時の写真です。」と話すと、子どもたちからは、「どうしてなの」という声があがった。ここで本時の学習課題を示した。

「あと3か月の命と宣告されたライオンが4年も生きることができたのはなぜか。ライオンの病気とはどんな病気だったのかを考えよう。」

ストーリーとしての授業展開
ここからは、PP教材（教師用画面）で、課題の共有化を行い、子ども用画面で各自が主体的に考えるようにした。PP教材には、近藤真庸氏の「ストーリーとしての授業からエイズについての科学的な知識とエイズ患者に対する差別偏見を考える」という視点を、次の2点から盛り込んでみた。

ライアンが母親に自分の病気について尋ねる場面から「HIVの特性」「感染経路」について子どもたち自身が考える場面を盛り込む。

ライアンが、地域や学校で受けた差別について、予想を立てながら考える場面を盛り込む。

この2つの視点から共有化した課題を、各自のコンピュータに戻って学習画面で考え、さらにこれを全体のものとして説明を加えた。

【共有した課題1】

- ・ HIVが免疫を壊す仕組みを理解する。
- ・ 人間が体外へ排出するものを挙げて、HIVの居場所を探る。

ライアンの母親が、医師から「息子さんはあと三か月の命」と宣告される。母親は、息子ライアンに、病気や残り少ない命のことを伝える決心をする。母親が「免疫機能」「HIVウイルス」「免疫機能を壊すという病気の特性」を語るようすを、PP教材で物語風

に説明した。

図 教師用画面：免疫についての説明画面とHIVによって免疫が壊されていく仕組みについての説明



H I V が ど こ に 存 在 す る の か ， と い う 点 に つ い て は ， ス ト ー リ ー の 中 で 「 ぼ く は ， 友 だ ち に 病 気 を う つ し て し ま う か も し れ な い の で ， 学 校 へ 行 け な い 。 」 と 嘆 く ラ イ ア ン に ， 母 親 が 説 明 す る 場 面 か ら ， 子 ど も 達 に は 次 の よ う に 問 い かけ た 。

「 H I V は ， 体 の ど こ か に 存 在 し て い て ， 体 か ら 排 出 す る 何 か に 混 ざ っ て 人 に 感 染 し ま す 。 ク イ ズ で 体 か ら 出 さ れ る も の を 探 し て み ま し ょ う 。 」

子 ど も た ち は ， 各 自 の 画 面 で ク イ ズ 画 面 (H T M L 教 材) を 呼 び 出 し ， 取 り 組 ん だ 。

【 共有化した問題の解説 1 】

人間の体から排出されるものはたくさんあ

みなさんへの質問です。

人間が、体の外に出すもの…。何があるだろう。

次の12個の中で、人間の体から出ると思うものの「を」をクリックして下さい。クリックすると「」になります。やり直すときは、もういちどその「ばいしょ」でクリックしてね。

「はなくそ	「はなみず	「汗
「息	「うんち	「げろ
「おしっこ	「あか	「糞子
「なみだ		「だえき

これは、難しいだろう！！！！

ここを押して答えをおくって下さい。

前のページにもどる

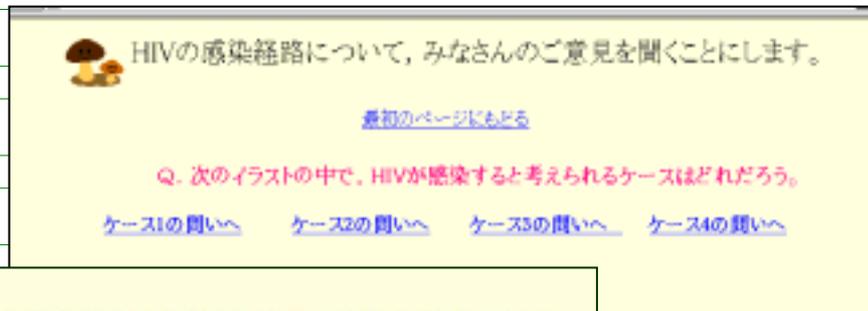
図 児童用画面（HTML教材）
対外へ排出されるものを考える。

るが、その中でHIVが存在するのは、「精液と血液」であることを押さえた。

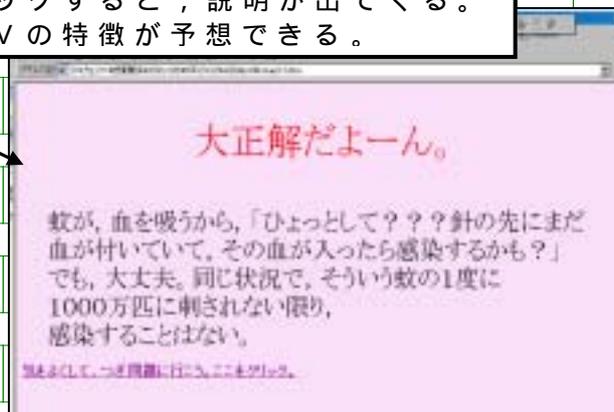
【 共有化した問題その2 】

課題1をとおして、「血液でうつるならやはりぼくは、友だちにうつしてしまおう。」と言うライアンに、母親は、HIVの感染経路について、説明しようとする。この場面で、感染経路についての理解を深めるために、各自の画面で再びHTML教材を呼び出してクイズに取り組んだ。

図 感染経路を学ぶクイズ画面（HTML教材）



選択した答をクリックすると、説明が出てくる。
説明文を読むとHIVの特徴が予想できる。

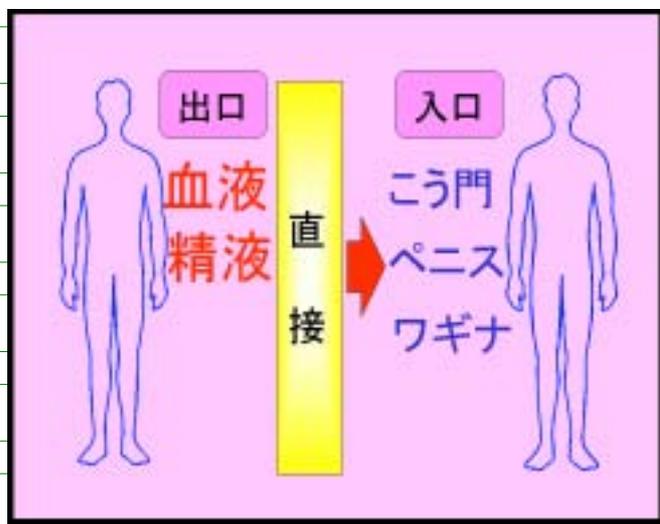


【 共有化した問題の解説 2 】

子どもたちは、意欲的にクイズに取り組んだ。クイズは「握手」「プール」「蚊」「コインランドリ-」の四つの場面とした。（クイズのイラストは、東山書房「性教育とエイディア教材」のイラストを使用）多くの子ども

もたちが、「蚊による感染」がありうると答えた。子どもたちは、クイズを通して気づいた「HIVの特徴」を発表した。養護教諭は、子どもたちの意見を次のようにまとめ、PP教材で入り口と出口を説明した。(図参照)

「HIVは、熱・水・空気に弱いウイルスで



健康なひふからも進入できません。

ふだんの生活では簡単に感染しないのです。HIVの入り口と出口は、

図 感染経路の入り口・出口

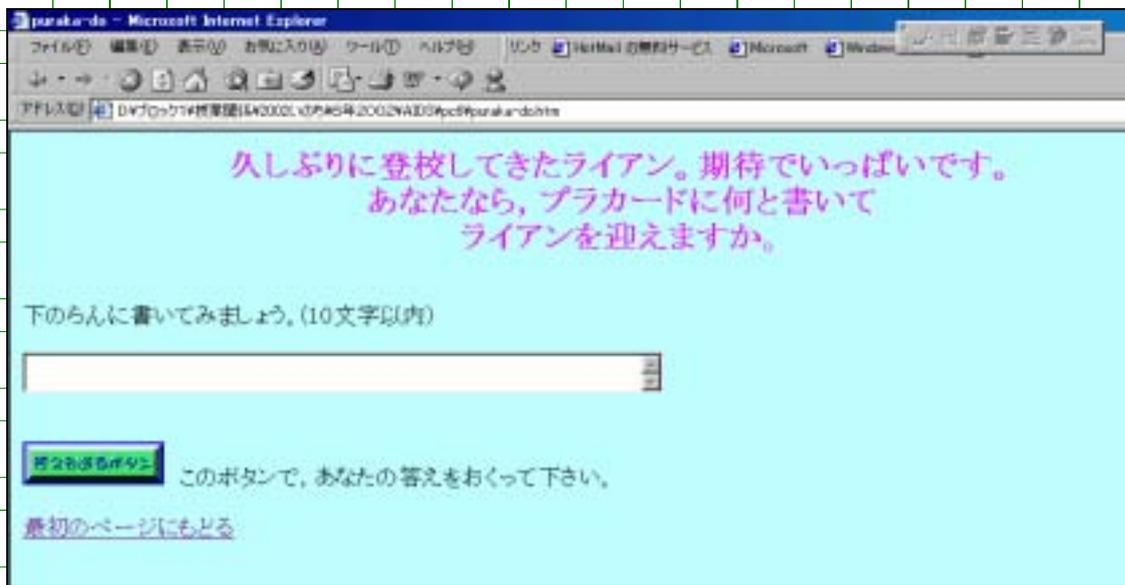
この図のようにま

とめられます。」

【共有化した問題その3】

医師の許可を受けて久々に登校したライアンを級友たちが、校門でプラカードを持って待っていた。「自分だったらなんと書いてライアンを迎えるか」の課題に、各自のコンピュータに自分の考えを入力した。

図 久々に登校したライアンにプラカードでひとこと！
あなたならなんて書く？



【 共有化した問題の解説 3 】

ライアンを待ち受けていたことばは、「GET AWAY」であったことを説明し、この病気を理解しない人々によって、ライアンが受けた差別や偏見について補足した。

しかし、新しい学校で「WELCOME」



と迎え入れられたライアンのことを話し、その学校の生徒達が「ぼくたちは、君の病気について勉強し

た。そして、普通の生活ではうつらないとい

う	こ	と	が	分	か	っ	た	。	君	は	ぼ	く	ら	の	仲	間	だ	。	一	
緒	に	勉	強	し	て	卒	業	し	よ	う	」	と	話	し	た	こ	と	を	説	
明	し	，	正	し	い	知	識	は	，	偏	見	や	差	別	を	な	く	す	た	
め	に	と	て	も	重	要	な	こ	と	で	あ	る	こ	と	を	押	さ	え	た	。
	学	習	の	ま	と	め														
	授	業	の	最	後	に	，	ラ	イ	ア	ン	の	病	気	が	エ	イ	ズ	で	
あ	っ	た	こ	と	を	話	し	，	エ	イ	ズ	に	つ	い	て	の	世	界	の	
現	状	に	い	て	触	れ	，	「	共	生	」	を	自	分	の	問	題	と	し	
て	考	え	て	い	く	必	要	性	を	話	し	た	。							
4		授	業	を	終	え	て													
	子	ど	も	た	ち	の	感	想												
	こ	の	授	業	を	と	お	し	て	，	子	ど	も	た	ち	は	エ	イ	ズ	
と	い	う	問	題	を	真	剣	に	と	ら	え	て	，	考	え	て	く	れ	た	
た	め	，	こ	の	後	に	続	く	「	薬	害	エ	イ	ズ	」	の	学	習	に	
も	ス	ム	ー	ズ	に	つ	な	ぐ	こ	と	が	で	き	た	。	こ	れ	は	，	
近	藤	氏	の	シ	ナ	リ	オ	構	成	の	す	ば	ら	し	さ	に	よ	る	と	
こ	ろ	が	大	き	い	と	感	じ	て	い	る	。	子	ど	も	た	ち	の	感	
想	を	以	下	に	挙	げ	る	。												
	女	子	の	感	想	(1)												
	ラ	イ	ア	ン	が	力	強	く	生	き	て	い	こ	う	と	す	る	姿	が	

す	ご	い	と	思	っ	た	。	パ	ソ	コ	ン	の	問	題	は	い	じ	わ	る	
だ	っ	た	け	ど	,	間	違	っ	た	知	識	を	認	識	す	る	こ	と	が	
な	く	よ	か	っ	た	と	思	う	。	い	い	勉	強	に	な	っ	た	。		
	女	子	の	感	想	(2)												
	エ	イ	ズ	は	精	子	や	血	液	で	感	染	す	る	こ	と	が	わ	か	
っ	た	。	ラ	イ	ア	ン	,	ガ	ン	バ	レ	っ	て	思	っ	た	。	エ	イ	
ズ	は	希	望	を	捨	て	て	は	ダ	メ	だ	と	思	う	。					
	男	子	の	感	想	(1)												
	H	I	V	は	,	免	疫	の	リ	ー	ダ	ー	を	ま	ず	た	お	す	か	
ら	,	め	ん	え	き	の	力	が	落	ち	て	し	ん	で	い	く	と	い	う	
お	そ	ろ	し	い	ウ	ィ	ル	ス	だ	と	分	か	っ	た	。					
	男	子	の	感	想	(2)												
	病	気	の	事	を	分	か	っ	て	く	れ	る	人	が	ふ	え	て	,	後	
3	ヶ	月	の	命	を	4	年	以	上	も	生	き	る	こ	と	で	き	て	,	
が	す	ご	い	と	思	っ	た	。	ラ	イ	ア	ン	君	が	病	気	だ	か	ら	
っ	て	い	じ	め	る	の	は	ひ	ど	い	と	思	っ	た	。	エ	イ	ズ	に	
感	染	し	て	い	る	人	と	普	通	に	生	活	し	て	い	れ	ば	う	つ	
ら	な	い	。	一	緒	に	お	風	呂	に	入	っ	て	も	大	丈	夫	。	血	
液	で	う	つ	る	。	輸	血	で	H	I	V	に	な	っ	た	人	も	い	る	。
	コ	ン	ピ	ュ	ー	タ	教	材	と	し	て	の	側	面	か	ら				

パ	ワ	ー	ポ	イ	ン	ト	は	,	プ	レ	ゼ	ン	テ	ー	シ	ョ	ン	ソ	
フ	ト	で	あ	る	。	そ	の	た	め	,	見	る	人	を	引	き	つ	け	る
機	能	が	満	載	で	あ	る	。	黒	板	で	は	表	現	で	き	な	い	ア
ク	テ	ィ	ブ	な	画	面	の	,	効	果	音	,	効	果	的	な	ア	ニ	メ
ー	シ	ョ	ン	に	よ	り	子	ど	も	た	ち	が	集	中	す	る	。		
	ま	た	,	ス	ト	ー	リ	ー	の	区	切	り	で	,	各	自	の	画	面
に	戻	っ	て	課	題	に	取	り	組	む	と	い	う	場	面	を	入	れ	た
こ	と	に	よ	っ	て	,	主	体	的	に	授	業	に	参	加	す	る	姿	が
見	ら	れ	た	。	子	ど	も	用	画	面	で	使	用	し	た	H	T	M	L
教	材	は	,	ホ	ー	ム	ペ	ー	ジ	作	成	な	ど	に	使	わ	れ	る	ソ
フ	ト	「	ホ	ー	ム	ペ	ー	ジ	ビル	ダ	ー	」	を	使	用	し	た	。	
ハ	イ	パ	ー	リ	ン	ク	機	能	を	利	用	し	て	,	選	択	式	ク	イ
ズ	を	作	成	す	る	と	子	ど	も	た	ち	の	興	味	を	引	き	つ	け
る	こ	と	が	で	き	る	。												
	以	下	は	,	コ	ン	ピ	ュ	ー	タ	教	材	に	つ	い	て	の	保	護
者	の	感	想	で	あ	る	。												
	授	業	参	観	し	た	6	年	生	の	保	護	者	(1)			